

協立グループだより

2021

Winter

協立グループ

2021年1月 発行責任者 神崎 光明 水俣市桜井町2-2-12 TEL(0966)63-1704

初春号



水俣協立病院

川上院長あいさつ

明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症で始まり、残念ながらもまだ収束は見られません。みなさん、この1年、不安の中、ご苦労されてきたのではないかと思います。私たちは外来での検温、マスク着用等コロナ感染に対応しながら医療を行って参りました。みなさんの御協力ありがとうございました。さまざまな制限はありますが、工夫しながらこれからも取り組んでいきたいと思えます。しかし、私たちの努力だけでは困難です。医療・介護分野にかかわらず、全ての分野で国からの支援が必要な状態です。

7月には熊本豪雨災害がありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。私たちもわずかではございますが復旧のお手伝いをさせて頂きましたが、お困りのことがありましたらいつでも御相談ください。本年もみなさんと一緒に様々な困難を乗り越えていきたいと思えます。どうぞよろしく御願い申し上げます。

神経内科リハビリテーション協立クリニック

高岡院長あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。感染のリスクだけでなく、経済的問題や精神的な問題が重なっておられる方々も少なくなく、身体も心もケアしていくという私たちの責任がより重くなっています。水俣病の歴史のように、実態把握を後回しにするのではなく、PCR検査体制の充実など、命と健康を守る政策が優先される国になるように引き続き行政に働きかけていきたいと思います。

困難な状況ですが、水俣協立病院と連携しながら、引き続き感染対策を行います。今年も宜しく御願い申し上げます。

私にとっての2020年とこれから

医師 光 永 顕 彰

みなさんにとって、2020年ほどのような年でしたか。私にとっては忘れられない一年でした。

その理由として特に二つのことが挙げられます。

一つ目は全世界的なコロナウイルスの蔓延が始まった年だということ。いまだ影響は続いており、with coronaという言葉にあるように、普段の生活スタイルや価値観を一変させる出来事でした。診療にも多大な影響がありました。急に違う世界で診療を始めたような感覚に陥ったことを覚えています。様々な感情が込み上げていました。未知の感染症に対する恐怖もありましたが、医療者としての覚悟を問われているようにも感じました。自分の行動ひとつで感染が広がったり、家族や地域の方々に影響を与えてしまうかもしれないという、医師という職業が持つもうひとつの側面に気づくきっかけになりました。また、命を脅かす疾患とし

ただでなく、感染症が持つ生活や社会全体に対する影響にも考えを巡らせながら診療をする必要性を改めて考えさせられました。

また、感染症によってだけでなく、災害で命や生活が脅かされることを肌で感じた一年でもありました。令和2年7月水害で家族と共に被災したことが自分の人生にとっても大きな分岐点になっています。

いまだに八代市坂本町にある実家は修理の途中であり、目の前に広がる球磨川にかかる鉄橋は無残にも折れ、バラバラになったままです。今まで当たり前だと思っていた生活が一瞬にして崩れ去ることが本当にあるのだと痛感しました。それと同時に、人生において本当に大事なものはとても少ないことがわかりました。家や物が流されたとしても、命があれば、そして家族と一緒に生活を続けることができれば、幸せを感じる事ができます。被災の経験をした

ことで、水俣や芦北で被災された患者さんの話を聞く際に、そのことを自分のこととして、リアルな体験として想像し、少しでも寄り添うことが出来るようになったのではないかと思います。

自分だけでなく、みなさんにとってもこの一年は「命」について考えさせられることが多かったのではないのでしょうか。奇しくも、コロナであれ、水害であれ本質は「命や生活を脅かすもの」です。私が持っていた価値観がこの二つの出来事によって変わったように、みなさんの心の中でも少なからず、2019年とは違う、「命」や「健康」に対する考え方、向き合い方の変化があつたと思います。その変化を忘れず、持ち続けることが、自分や自分の周囲の人たちの笑顔を守ることにつながるのではないのでしょうか。水害やコロナの蔓延が無いに越したことはありません。ただ、起きたことを受け止め、ど

う解釈するか。そこから何を学び、経験とし、より豊かな人生の糧にしていけるのか、自分と向き合い、考え抜く力が私たちにはあるはずですが、何年後になるかはわかりませんが、自分の人生の大切な一部として、2020年の出来事を振り返ることができるよう皆さんと共に、歩んで行けたらと考えています。



自宅前にてご家族と

めまいについて

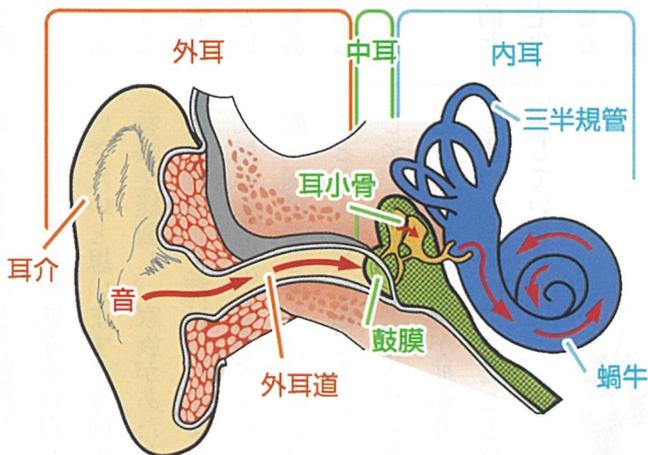
医師 田島 栄治



2020年10月から水俣協立病院で働いている田島栄治です。新専門医制度の総合診療・専攻医として地域医療に励んでいます。医師は様々な疾患に対応する必要がありますが、性格や器用さ経験の差などからそれぞれ得意な分野や疾患が自ずとでてくるものです。私の場合にはめまい症、とりわけ良性発作性頭位めまい症 (Benign paroxysmal positional vertigo: BPPV) に関して医師になりました。この頃からめぐり合わせが多くあり、得意な疾患となつております。今回は、この良性発作性頭位めまい症 (以下BPPV)

V) についてご紹介します。内耳の前庭という部位には直線方向の動きを感知する耳石器があり、その表面には耳石という小さな砂のような物体がびつしりと付着しています。BPPVではこの耳石が本来あるべき場所から剥がれてしまい、三半規管という頭の回転方向の動きを感知する器官に迷入してしまふことで起こります。めまい症の中でこのBPPVが占める割合は調査によってまちまちですが、おおむね5割程度と考えられ、私が救急外来で過去に対応した急性めまい症に限定すれば9割以上と非常に高い頻度で遭遇する疾患です。発症の多くは起床時やTVを寝転がってみている時、掃除をしている時など頭を横か下向きにして動いた時、突然おこります。この突然というのが一つ目のポイントで、その際天井や風景がぐるぐる回るように感じる回転性めまいを自覚します。多くの人は目を開けていることができずに目

を閉じ、うずくまるか横になることとなります。また吐き気をもよおして実際に吐いたりします。安静にしていると30秒ほどで視覚的な回転は消退しますが、気持ち悪さは残ります。この安静にしていたら回転性めまいが改善するというのが二つ目のポイントです。これら2つのポイント「急性発症」で「安静にする」とすぐにめまいが改善」という特徴がある場合にはBPPVである可能性が非常に高まります。BPPVは急性発症の場合には頭部を動かすことで眼振が確認できます。この時患者さんは強烈な回転性めまいを自覚されます。耳石が迷入した三半規管に応じて適切な手技を実施できれば、耳石をもとの位置に戻すことができるのですが、これがなかなか難しく、患者さんも吐き気が起



耳の断面図

こるため手技を実行・完遂できないことがほとんどです。その場合、めまい症状を緩和できる点滴などを投与して経過をみることとなります。BPPVはその名の通り良性疾患で、多くの場合1週間以内、長くても1か月ほどで自然に改善しますが、急性期のつらさは相当なもので、かつ脳血管疾患との鑑別も重要になってくるため早めの病院受診をおすすめします。

小児の訪問看護をはじめて

訪問看護ステーション協立 看護師 南 美由紀

私たち訪問看護師は、殆どの対象が高齢期の方々ですが、今回小児の訪問の相談を受け、ただ、母親としての経験があるという事だけで、小児の訪問看護をやってみようと思いました。病院のベッドで眠る赤ちゃんを見て、自宅に連れて帰ってあげたいという熱き思いをスタッフにぶつけていました。

熊本市周辺地域では医療機器を装着しても自宅で家族と共に生活をされ、日中に専門のサーブスにお出かけする事が出来ません。しかし、県南地域では、体制が不十分であり生後間もない乳児の受け入れは症例が乏しく、福祉に関する情報も殆どありません。今回実際に小児訪問の研修を受け、家族の愛情の中で過ごす子供たちを見ていると、小児の訪問看護を受け入れたいと強く思いました。「家族とのあたりまえの暮らし」に向け、お母さんが病院に通い、色々な身の回りのお世話をする為の練習が始まりました。

4月に自宅に帰ることができ、

訪問看護師はお母さんとみーちゃんの体調確認が主な任務となりました。当初は肺炎を繰り返して入院が多く、自宅に居られる時間は少なかったのですが、徐々に体力がついてきて家には人工呼吸器も取り外すことができ、声を上げて泣くことも増えましたが、酸素吸入、経管によるミルク注入が必要です。

また、リハビリに通うための外出は、その都度色々な機械と共に移動することが大変なため、医療機関からリハビリの先生に来てもらい指導を受けました。現在はリハビリを兼ねた見守りを実施しています。毎日抱っこや寝返りなどを実施しながら、声を上げて喜んで反応してくれると、訪問看護師も会いに行く楽しみも増えて、時間がたつのも早く感じます。おもちやを手にして絵本を読み聞かせしたり、音楽を聴いたりするのも、普通に赤ちゃんに接するのは何も変わり無く、とてもかわいいです。

このような子供たちは命と向き合う場面が多く、急に様態が悪くならないかと、不安感があります。その時に看護師がうまく対応できるだろうか、家族の心の支えになれるか等不安というより怖さが先立った時期もありましたが、今はお母さんから安心して任せてもらえるようになりました。

この県南地域でも、医療的ケアが必要な子供が早期に在宅生活に戻り、家族と共に暮らせるように、医療機関、保健所、役所の保健師や福祉課、福祉コー

ディネーターなどと連携し、新たな生活支援の拡充を目指していきたいと思えます。今回小児看護を経験し、家族があたりまえの暮らしを続けられるように支援や制度の充実を求め、家族・関係者とともに声をあげることが大切だと感じました。そして、私達が行動することでみーちゃんの支援が拡がり、少しずつ光が見えてきたことを実感しています。



訪問看護の様子

令和2年7月熊本豪雨災害支援

～友の会は地域と共に～

みなまた健康友の会 事務局長 打上 里美

昨年7月に発生した豪雨災害では、穏やかに流れ、多くの恵みと癒しを与えてきた球磨川が一夜にして豹変、芦北町、津奈木町でも甚大な被害を受け多くの方が命を落とされました。

友の会は、災害発生の7月4日早朝、水俣市内の会員さんに連絡し、安否確認を行いました。幸い、連絡のとれた方々は被害もなく無事でしたが連絡のとれない方も多く、同日に訪問活動も行いました。水俣市内でも、陣内、白浜などの1部は床上浸水しており、山間部では土砂崩れも発生していました。お会いできた方々からは「避難所は人が多くて自宅の2階に避難した」「一人なので不安で恐ろしかった」など災害発生前後の状況を聞かせていただきました。お会いできた皆さんのお顔をみて安堵したことを思い出します。

翌5日は、民医連を含む他団体の方々と共に、芦北町で浸水被害を受けた病院職員宅、その他病院関係者のご自宅への片づ

け支援に入りました。1階部分はほぼ浸水状態で、家具や家電も全滅の状態被害の甚大さを目の当たりにしました。その後、水俣協立病院別館を拠点に「水俣芦北ボランティアセンター」を立ち上げ、友の会も民医連や他団体と共に水俣市内、芦北町内の数件の片づけ支援に入りました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、その後のボランティア活動は自粛せざるを得ない状況となりました。そこで、友の会では独自の活動として、芦北町の会員さん宅への訪問活動に取り組むことにしました。ご自宅の片づけの途中でお会いできた方からは、災害発生時の状況を詳細に聞かせていただき、「話を聞いてもらってよかった」と言われる方もおられ、傾聴することの大切さを実感しました。

8月に入り、芦北町佐敷駅前で行われた炊き出しボランティアに健康チェック部門として看護師と一緒に参加し、8月後半からは、球磨村ボランティアセ

ンターの運営支援に参加しました。週末は、県と熊本市がボランティア参加者を運ぶ無料バスを運行し、多くの個人・団体が球磨村の復興のために力を尽くしました。無料バスは9月末で終了しましたが、球磨村の被害は甚大で、今後も長期に渡る支援が必要な状況であり、11月から再び熊本市の無料バスが運行されています。これにより、少しずつですが球磨村の復興も前進しています。

友の会は今後、仮設住宅入居者の皆さんへの支援も並行して行っていききたいと思えます。



家屋の片づけ



球磨村ボランティアセンターの様子

また、今回の豪雨災害は、「地球温暖化が関係しているのではないか」とも言われています。私たちの暮らしや環境にも大きな影響を及ぼす環境問題も忘れてはなりません。

これからも友の会は地域と共に歩み、どんな困難な状況も地域の皆さんや民医連の仲間と共に乗り越えていきたいと思います。

トピックス

**オンライン面会を
行っています**

医事課 打上 努

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入院・入所者への面会を禁止・制限している医療機関・介護施設が増えていきます。水俣協立病院でも現在、入院患者さんへの面会は原則禁止となっております。入院患者さんやご家族から「会いたい」「顔を見たい。」などの要望があり、10月よりタブレット端末を使用しているオンライン面会を実施しています。モニター越しの面会ではありませんが、利用されたご家族からは「顔を見て安心した。」「久しぶりに会えてほっとした。」などの声を頂いております。

オンライン面会の実施時間は平日午後のみで事前予約制となっております。予約やお問い合わせなどございましたら、水俣協立病院までご連絡ください。



新入・異動職員紹介



下記の職員が入職、異動いたしました。宜しくお願いいたします。

(総務課) 事務 石川 雅樹 (病棟) 看護師 平田 公太 (栄養科) 管理栄養士 橋迫 仁奈
(リハビリテーション科) 作業療法士 古澤 政人 (ヘルパーステーション協立) 登録ヘルパー 柏木 徳子

無料送迎のご案内

平国・赤崎コース 宝川内コース 鬼岳コース
海浦・田浦コース 長崎・小田代・平町コース 牧ノ内・湯ノ見コース

求人案内

～一緒に働く仲間を募集しています！～

(正職)

診療放射線技師、看護師、調理師

(パート職員)

看護師、看護助手、調理師、調理助手、介護福祉士、
リハビリ助手、登録ヘルパー

外来診療のご案内

協立病院

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	○	○	△
夜間診療	○	△	○	△	○	△

午前診療時間 9:00～12:00
午後診療時間 14:00～17:00 (月～金)
夜間診療時間 17:00～19:00 (月・水・金)

協立クリニック

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	△	○	○	△
夜間診療	○	△	△	△	△	△
通所リハビリ	○	○	○	○	○	△

午前診療時間 9:00～12:00
午後診療時間 14:00～17:00 (月・火・木・金)
夜間診療時間 17:00～18:00 (月)
通所リハビリ 祝祭日も行っております

編集後記

7月の熊本豪雨災害。7月3日の夜から4日の朝方にかけて、降り続く雨。避難し、一睡もできなかつた方々も多かつたと思います。水俣川の氾濫は免れましたが、あと1時間降り続いていたらと考えると、球磨川そして佐敷川の流域の大きな被害は他人ごとではありません。治水対策として、堤防や護岸、放水地、遊水池の整備などいくつかありますが、2008年に蒲島知事が「白紙撤回」した川辺川ダム建設問題が急浮上してきました。台風での大雨によって上流のダムが緊急放流し、下流の住民が流されて亡くなるという悲劇が実際に、日本で起こっています。果たして、本当にダムを作ることによって、下流域の住民は安全でいられるのでしょうか。(K)

